



『山造りの目的を明確にする間伐』

通年コース第七、八回『間伐』

発行 KOA 森林塾 (事務局) 0265-70-7065
編集 早川清志
題字 島崎洋路



保残木にテープを巻く。これ以外は全部切る予定

植えた当初は大きな目的やたくさん夢があったはずですが、所得倍増や列島改造の時代に人は常に川下を目を向け、背中にある山に思いを致す事がなくなりました。

まいました。そのため、全国のいたるところに手入れ不足の山林が見受けられるようになって久しく、山や、そこでこの仕事に夢を見出しにくくなってきました。



しかしバブルの崩壊を経て、自分の足もとにある山林に目を向ける人が増え、また都会からエターンをして、山仕事に携わりたいという人も少しづつ現れてくるようになりました。

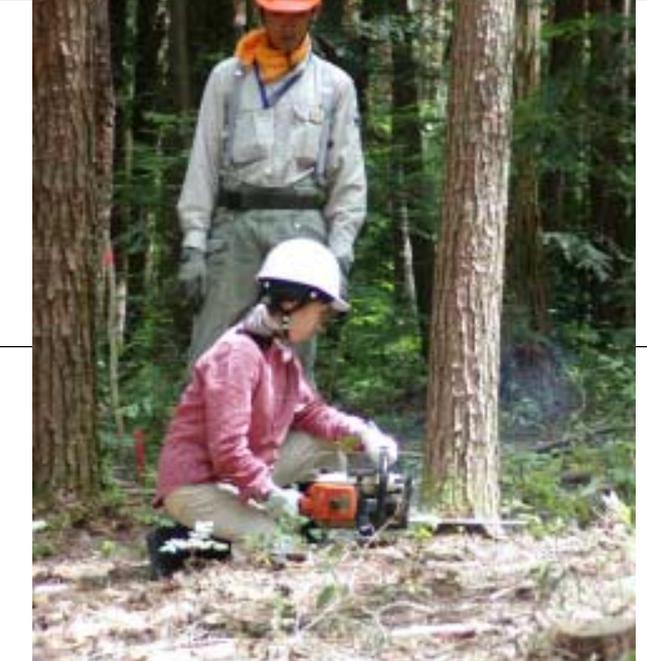
植えられそうな山にはおおかた植え尽くされた現在、やはり一番しなければならぬ

て、自分の足もとにある山林に目を向ける人が増え、また都会からエターンをして、山仕事に携わりたいという人も少しづつ現れてくるようになりました。

分を目的に合わせると手入れする方法です。マークはされていないが保残木の生育を邪魔してはいけない木は切つても良いし切らなくても良いとい

仕事は間伐です。その山が、将来どのような山になつていけば良いのか、目的をしつかり決めて、夢のある山仕事をしたいものです。

この二又の木は？そう!! 2本としてカウント
う、いたつてアバウトな方法なのですが、言い方を換えれば、山造りの目的に合わせると択できるという事でもあるので、手入れを機に、今後この山をど



間伐開始。姿勢はまあまあ

ういうふうにしていくのか、一度じっくり考えてみたいものです。

10時 小屋に戻り、間伐のための調査表を完成させる。材積計算は宿題
11時20分 間伐について、保残木マーク法について、島崎先生の話を

も良いし切らなくても良いとい
う、いたつてアバウトな方法なのですが、言い方を換えれば、山造りの目的に合わせると択できるという事でもあるので、手入れを機に、今後この山をど



受口と追口、そして間に残っているのがつです

通年コース第七、八回
7月17、18日(土、日)
間伐

17日(土) 8時30分 島崎先生の山小屋に集合。保科先生のあいさつ。日程説明と班分け
8時50分 ますみヶ丘平地林の現場に移動。20メートル四方のプロット調査。森林塾でちよくちよく伐倒をしているので、ロットを取つてもら



U F O探索か?いえ!!ただの樹高測定です

12時 昼食

1時 現場へ移動し、保残木にテープを巻く。林齢が五十年程度の班がほとんどだったので、テープの本数は二十本弱。プロット内の間伐開始

3時 作業終了、小屋に戻り、チェンソーメンテナンス

4時15分 講師総括、とりあえず解散。温泉に行きたい人は温泉に。二年目の幹事さんたちは買出し。残りは暑気払いの準備に取り掛かる。天気予報どおり、ぼつぼつ雨が降り

出したので前庭にシートをはった。一時激しく降ったのでこれが役立つことになる

6時 二年目園田さんを幹事長に、暑気払いが始まる。杉村さん、園田さん等(覚えきれずにごめんさい)、お酒の差し入れありがとうございました。保科先生や佐々木さんから新鮮な野菜、ごちそう様。長坂さんからは巨大スイカ。謝謝

OB会長の大野さんや浜田()さん、風見さん、成田さんが顔を出してく



玉切りが案外難しい。材の応力はどっちかな

れました。再見。結構遅くまで、焚き火回りで話が弾んでいた模様

18日(日)

8時30分 鳥崎先生の山小屋に集合。先生方のあいさつ。日程説明。昨夜来の雨がシヨボシヨボ。天気予報では快方に向かうはず。鳥崎先生に間伐指針の説明をしてもらう

9時30分 雨もほぼあがり現場へ。間伐再開。プロット内を切り尽くし、外側に移動する班多し

12時 林内はまだ乾ききらず、小屋に戻り昼食

1時 現場に移動し間伐再開。適宜休憩をはさみ

3時30分 作業終了。お疲れ様でした。小屋に戻り講師総括

4時 解散。今回もたくさん丸太が切り出されました。曲がったアカマツと末口10センチ程度のヒノキやサワラ。とても市場に売りには出せませんが、ストーブ薪や、手作りの花壇、駐車場の車止めなど利用価値は十分にありまます。必要な方は事務局までお問い合わせください。

参加者/江上さん、角田さん、梶永さん、金田さん、佐々木さん、笹原さん、神保さん、杉村さん、田中さん、平さん、堀さん、増井



すっかり明るくなった林内

次回以降の予定

集中コース夏の部
7月30日(金)
8月1日(日)

樹木分類や測樹などの現況調査から、チェンソーを使った伐倒、そして林内作業

さん、湯澤さん、服部さん、井伊さん、園田さん、武田さん、矢島さん、小笠原さん
講師/保科先生、鳥崎先生
スタッフ/大野、川島、後藤、椎原、坂野、早川

車などによる集材と、三日間をフルに使ったコース。参加予定は十二名です。忙しい日程なので、参加される方は鳥崎先生の『山造り承ります』を入手されて、予約をお奨めします。

初日が両先生の担当です



公園のあずまやで調査表作り

第九、十回8月28、29日(土、日)

伐出

切った木を山から出す事です。簡単なものは人力で、無理なものはウインチ付きの機械で出します。キャタピラ付きやタイヤの林内作業車も運転してみましよう。8時30分鳥崎先生の小屋集合、28日が鳥崎先生、

29日が保科先生の担当です

第十一回 9月18日(土)
見学

山から切り出された材木はどんなルートでどこへ行くのか。

県森連の木材市場や建具屋さんなどの見学を予定しています。8時30分、鳥崎先生の小屋集合

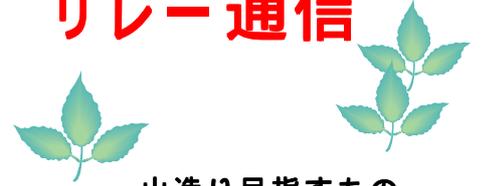
第十二回 9月19日(日)

枝打ち

ヒノキやスギなど、特に柱材生産を目指すためには、間伐と枝打ちをセットで実施する事が望ましい。枝打ちの時期や方法などを身につけてください。また木登りは自分で作ったぶり縄で、8時30分、鳥崎先生の小屋集合。担当は保科先生です



リレー通信



山造り目指すもの
神保圭吾



ゴルフ場に行くように、下刈り鎌とノコギリ、鉋を持って、山に行くことが、私の一つとなり、さらに、土地を借りることに飽きたら、たまたま、そのチャンスが訪れたこともあり、趣味で車を買うように山を買ってしまいました。

和歌山県に林業職で就職し、林業関係の職場で働いている方に直接話を聞いた、その作業に接したり、また、林業を知識として囁る機会が多くあったこともあり、自分でも林業をやってみたいと思っていたところに、十一年前に実家のある町内の財産区で伐採跡地の地上権を貸して貰える(分収造林)という機会を得たことが切っ掛けで、サンデー林業を始めました。

その一部を自力で地拵えから植林まで、見よう見まねで行いました。作業を終え、昼に切り株に座って昼飯を食った時の爽快感を体験したことで、林業活動の楽しさを知り、林業の虜となり、それ以来、土日には、ゴルフを趣味とする人が、ゴルフクラブを持ってゴ

自分でも山林を持つ機会が得られ、本格的に、林業が私の趣味の一つとなり、現在は、そこが休日に、余暇活動として、林業作業を行っている私の活動エリアとなっています。

私が、KOA森林塾の存在を知ったのは、二〇〇〇年に、鳥崎先生の書かれた「山造り承ります」という本との出会いからです。

その中で出てくる鳥崎先生の山林塾の話やサンデー山守、愉快な山仕事を讀んで、自分の目指しているものと共通点があり、共感を覚え、いつか機会があれば、一度訪ねていきたいと思うものの、「長野県の方で林業の作業を教えてください」ところ

があるのだな、和歌山県にも、あればいいのに。」と、遠い地の話でしかありませんでした。

山を買うまでは、十センチまでの木を切っていたので、チェーンソーは、混合ガソリンやチェーンソーオイルを用意したり、目立てをししたり、また、持って行くのに重たいと煩わしさばかり感じ、ノコギリ、鉋ばかりを使用していました。切った木が大きなと、やはり、チェーンソーの威力にはかなわないことを実感しているところです。

自己流での限界を感じていたところ、昨年、緑の列島ネットワークが主催するスクールに参加し、鳥崎先生の講義を受ける機会があり、KOA森林塾に、県外からも参加されている話を聞きまし

その時に、県外者でも参加出来ることを知って、居ても立っても居られないで、伊那が長野県のどこに有るかも知らないのに、講義の後で、鳥崎先生に、その申し込み方法を知り、参加することになりました。

森林塾第一回目、二回目と参加し、保科、鳥崎両先生とスタッフの講義の説明、そして、現場の指導のあまりのわかりやすさに、目から鱗が落ちるおもしろいと感じ、今は、和歌山から約四百キロメートル

それ、第一回目の植林の時に、カラマツ林を歩いて、浜田久美子氏が現代林業という雑誌に投稿されているなかでの日々の林業活動の話とダブルのを感じ、後で、それが、同一の場所であることを知ったことや、この原稿を書くに当たり、再度、「山造り承ります」に目を通して、浜田久美子氏がKOA森林塾の卒業生であったり、早川さんや川島さんや後藤さんと本の中で、出会っていたことを知り、KOA森林塾に参加出来たことをさらに喜んでいます。

また、研修生方々の中に、それぞれの地域で森林整備への活動に取り組まれている方が多いことを知り、うれしく思いました。

取り留めもなく書きましたが、今後とも、KOA森林塾で、沢山学んで、そして、皆さんと知り合い、また、一緒に活動していきたいと思っておりますので、皆さん、よろしくお願ひします。

また、研修生方々の中に、それぞれの地域で森林整備への活動に取り組まれている方が多いことを知り、うれしく思いました。

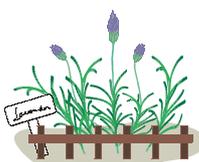
取り留めもなく書きましたが、今後とも、KOA森林塾で、沢山学んで、そして、皆さんと知り合い、また、一緒に活動していきたいと思っておりますので、皆さん、よろしくお願ひします。

また、研修生方々の中に、それぞれの地域で森林整備への活動に取り組まれている方が多いことを知り、うれしく思いました。

取り留めもなく書きましたが、今後とも、KOA森林塾で、沢山学んで、そして、皆さんと知り合い、また、一緒に活動していきたいと思っておりますので、皆さん、よろしくお願ひします。

また、研修生方々の中に、それぞれの地域で森林整備への活動に取り組まれている方が多いことを知り、うれしく思いました。

取り留めもなく書きましたが、今後とも、KOA森林塾で、沢山学んで、そして、皆さんと知り合い、また、一緒に活動していきたいと思っておりますので、皆さん、よろしくお願ひします。



リレー通信



山ってなんだろう

杉村嘉勇



どうせ信州の山里に越してきたんだから、まあ、気分よくマイペースで生活を楽しまたいものだと軽く考えていたのです。ところが、世の中そうは甘くはないもので、東京で会社勤めをしてきたときと大差のない日々が続く、気がついたらもう、三年が過ぎようとしていました。小さな畑と田んぼを借りて、義父や近所の先達各位から農作業の手ほどき

を受けながらのわが日曜百姓と、仕事とが、それなりに両立していることを思えば、東京での暮らしとはかけ離れた心地よい日常を紡いでいることは、紛れもない事実でしょう。だから、期待していた「くうたららの日々」が手に入らないからといって文句を言っているのはバチが当たります。当分は、「そこそこの日々」でも、いずれは机に向かう仕事から解放され、野や山をうつろい、自分なりの時間と空気を手に入れるまでワガママは申しません……。中年も後半に差しかかってくれば、辛抱や我慢と仲良くするコツも心得たものです。やれやれ。

さて、妙な書き出しから入ってしまいました。現在わたしは伊那市の隣町の高遠町というところに住んでいます。鳥崎先生の山小屋からは天竜川をはさんで対岸の、三峰川という支流をどんどん遡っていった先で、箱庭のようににこじんまりと寄り合った小さな町です。四囲を山々

に抱かれた山里ならではの、自然一杯の地に居を構えた当初は、やることを為すこと目新しく、近所で雉やハクビシオンやアナグマを見かければワクワクしたものです。都会に住んで、路傍に根付いた一本の雑草すらありがたく思っていた頃からすれば、なんとという大躍進、そのせいかどうか、呑むもの喰うものすべてが美味しく、おかげで五キログラムほど体重が増え、しまいました。

家の裏には畑が広がり、さらにこんもりとした森に覆われた山に続いています。借りている田んぼまでは歩いて五分、朝に夕に通う道の途中から沢をはさんで両側に鬱蒼とした山林が囲み、「わあ、自然が一杯！」なんて浮かれたものです。山に木が生えているのは当たり前なこと、それもジャングルのように生い茂っていればなお更、「これぞ天然」などと満悦至極の極楽蜻蛉を演じていました。

ところがその後まもなく、猪が田んぼに入り込んでせっかくの稲を踏み荒らしたり、鹿が稲穂を食い歩いたり、畑の作物も何者かに掘り起こされ、また食い散らかされるなど、山に棲む獣の皆さんのご乱行が目にするほど頻発していることを知ったのです。さらに程なくして、

近隣の山々が実は五十〜百年くらい前までは草山や柴山だったということを知るに及んで、眼前の風景が陽炎かお化けであるかのように感じられ、上っ面だけ「自然」をありがたがっていた能天気には、落雷直撃ともいえる衝撃でした。

獣たちの進出については、いくつかの理由が説かれています。個体数の激増、減反によって中山間地の休耕田が増え里へ出やすくなったことなどですが、なんといつても山が荒れ、木の実などの餌が減ったことを原因に挙げる人が多いようです。ところで、山が荒れるってどういうことなんだろう？ わたしの山に向けられた目は、疑り深いドジョウのように鈍く光ることになりました。また、かつて近隣の山々に木がほとんど生えていなかったというところにも驚かされた。化学肥料がなかった頃、田んぼの地力をつけるため、草や柴などの草肥を山から刈り出し、田植えの前に踏み込んだということですが、そうした草肥の供給地であつた草山は、田んぼの十倍以上の面積が必要だつたといえます。わたしの山のイメージは、くもの巣に捕われたカタツムリのように混乱しました。

自然を守るということは大切なことだと思えます。たしかに生物の多様性が損なわれることになれば、その影響はいずれ人の社会に及ぶことになるでしょう。失われた生態系を復元することはほぼ不可能です。守るべき自然がある、あるいはあるだろうと思えます。ただ、それは持続可能な社会を探る手立ての、ほんの一部に過ぎないもので、実はもっと違うところ、たとえば私が見誤っていたように、何気なく思い込んでいた「あたりまえのようないふこと」について、少しでも疑ってみるといふことなのかと、どんどん薄くなる髪の毛に手を添えながら、ひとりごちているのです。

コラム

梅雨から夏にかけての時期はとも簡単に木の皮がむけます。これは木が活発に活動している為。そのため、逆に活動を休止している冬は簡単にはむけません。この暑い時期に伐つた木の皮をむくのは面白いものです。そしてその後に出てくる肌がこれまた美しい。皮の下にこんなに美しい肌が隠れていたのかと驚かされます。やつ

たことのない方は一度やってみて下さい。また、木の皮をむくことで、住宅建築に使われる用材としてのイメージも持てると思います。例えば立っている木の元を少し残して伐つて皮をむけば、それだけで土台のしっかりした丸太の柱の出来上がり。これをイメージしながら見ると、針葉樹の林はそのまま住宅用の柱が立っているように見えてきたりします。大工さんが木材を山の立ち木で買われるという場合には、そういった見方もしておられるのでしょうか。 [Ken]

おわりに

大暑の前、東京では最低気温が30度を上回ったらしい。熱帯夜の上ですね。気の毒すぎて「春は晴、夏は夜」冗談じゃないよ、と言いたいけれど、ここ伊那界隈は朝方は20度程度で夏眠も睨を覚えません。

投稿大歓迎。ご意見、ご質問、ご要望、事務局まで。

TEL 0265-70-7065
FAX 0265-70-7994



E-mail:
ki-hayakawa@koanet.co.jp
sh-sakano@koanet.co.jp
携帯:090-4463-0062(開催日)
URL http://www.koanet.co.jp